

## 道を踏み外した祭司

マラキ書2章

ところが、あなたがたは道を離れ、多くの人を教えてつまずかせ、レビの契約を破ったと、万軍の主は言われる。(8)

前の章で神の民の霊的な衰退ぶりが明らかにされましたが、この章ではその原因を作った指導者である祭司たちに向けて厳しい神の言葉が告げられます。

宗教的な指導者であった祭司たちは次の二つの点において過ちを犯しました。第一は、神のことは語る祭司自身が律法に背く生き方をしていたのです。「あなたがたはわたしの道を守らず」(9)。神の言葉を語る者は、まず自分自身に対して語る者でなければなりません。ところが当時の祭司たちは自ら律法を破っていたのです。もう一つは、人々に神のことは教えるに際して、正しく語ることをしなかつたということです。人々を神のもとに導くどころか、「多くの人を教えてつまずかせ(た)」と言われています。これらの罪のゆえに、祭司たちに神の刑罰が宣告されています。神によつて特別に選ばれた者たちは、それだけ責任は重く、他の人々よりも厳しい神の審きが下されることになるのです。

旧約の祭司たちは、現代においては牧師、伝道者を指すと言えるでしょう。人々に神の言葉を語る使命が与えられている者たちは、常に高い靈性を保つていることが求められます。パウロも弟子テモテに対し、「自分のことと教のことに気をつけ、それらを常に努めなさい」(第一テモテ四16)と語っています。主の働き人のために、ぜひ熱き祈りを！